

平成 2 7 年度

地球環境「自然学」講座

第 6 回

テーマ

「お寺の森での環境学習活動 3 0 年と事例報告」

講師

フィールドソサイエティ代表

久山 喜久雄

フィールドソサイエティ事務局長

久山 慶子

平成 2 7 年 6 月 2 7 日（土）

N P O 法人シニア自然大学校

講師略歴

久山喜久雄：フィールドソサイエティー代表

1954年熊本県生まれ。

同志社大学大学院総合政策科学研究科修了後、大学職員の傍ら、環境学習活動を実践する

1985年にお寺との二人三脚で「法然院森の教室」を立ち上げる

1989年より「森の子クラブ」を主宰する

1993年に「法然院森のセンター」の開設と同時に、施設の運営管理と環境学習活動を継続・発展させるための任意団体「フィールドソサイエティー」を創設、代表に就任する

2015年度京都市環境審議会委員を務める

1991年に「法然院森の教室」の活動は第9回朝日森林文化賞を受賞

2011年に「フィールドソサイエティー」は共生・地域文化大賞奨励賞

2015年にオムロン地域協力基金ヒューマンかざぐるま賞を受賞

主な著書に

『御嶽の風に吹かれて』（ナカニシヤ出版）

編著書に『森の教室』（淡交社）、『大文字を歩こう』（ナカニシヤ出版）などがある

久山慶子：フィールドソサイエティー事務局長

1958年兵庫県生まれ

同志社大学文学部卒業

1985年より「法然院森の教室世話人」

1989年より「森の子クラブ」活動リーダーとして環境学習に携わる

1993年より「フィールドソサイエティー」事務局長として、活動と「法然院森のセンター」の運営に携わる。京都府立林業大学校客員教授、京都モデルフォレスト協会森林づくり基金運営委員、府民参加型モデルフォレスト運動推進委員、京都市私立幼稚園連盟研修会講師なども務める

主な著書に

『身近なときめき自然散歩』（共著・淡交社）

『大文字山を歩こう』（共著・ナカニシヤ出版）などがある

「お寺の森での環境学習活動 30 年」

講師 フィールドソサイエティ代表 久山喜久雄

はじめに

身近な自然との出会い

東山の連なり、深泥池、鴨川、御苑の森など

水と緑の京都

京都盆地の成り立ちは地球規模での環境の変化を物語ってくれる。

長い時間を経た山川の過去を繙くことで、現在に至る植生の変遷を学ぶことができる。

1. 暮らしの場での楽しみから

<親しむ> 趣味として始めた野鳥観察。

<知る> 野鳥を通して周囲の環境について学び、自然保護への関心が高まる。

<行動する> 人々と語り合い、自然と環境をテーマに仲間とともに活動を始める。

2. 環境学習の視点

わが国は、1960 年代の高度経済成長の影で公害列島と化した。1972 年、ローマ・クラブは「人類の危機に対するプロジェクト」の報告書（成長の限界）を刊行した。しかし、地球規模でも環境問題は深刻さを増し、国内でも大規模開発などで自然環境の多様性が損なわれた。一方で、市民の環境保全意識の高まりがあった。京都では 1997 年に地球温暖化防止条約締約国会議（COP3）が開催され、ますます環境学習活動へも市民の目が注がれるようになった。

3. 法然院森の教室

自然保護を念頭においた自然観察会活動を始めようと、身近に「学びの場」を求めている市民と、「寺は地域に開かれた共同体でなければならない」という法然院の梶田真章住職とが出合い、寺と市民の二人三脚の環境学習活動が 1985 年 11 月に誕生した。「地球的な視点をもって考え、地域的に行動する」をモットーに、自然・環境について語り合い学習する会が、寺の境内林や講堂を教室に、月 1 回開催された。現在 129 回を数える。

4. 環境学習フィールド

京都市東山山麓及び法然院寺林は里と山との接点にあり、常に人間の利用にさらされてきたが、生物の多様性が保持されており、都市におけるサンクチュアリー（生きものの聖域）と呼ぶにふさわしい場所である。生態系の基本的成り立ちを学び、暮らしの文化をたずね、そして、多様な知恵や知識を持った人々と出会える格好の環境学習フィールドである。

5. 森の子クラブ

豊かなお寺の森を子どもたちとの活動にも生かしたいと、1989 年に、環境学習・自然体験活動「森の子クラブ」（会員制）を開始した。自然・環境を考えるきっかけをつかむだけではなく、感受性を磨き、仲間づくりを行うことを目標に、一年間、様々なプログ

ラムを行っている。活動は毎月の「もりのこつうしん」で報告している。

6. 共生き堂（通称：法然院森のセンター）の開館

法然院森のセンターは、「縁起（生かされて生きている）ということを実感し、人と人、人と生きものが出合う寺でありたい」という住職の思いから、1993年に、寺によって建設された。それまでの環境学習活動の進展により、拠点の必要性が高まったことが、きっかけである。

展示を行い、身近な自然へと誘うビジターセンターの役割を担っている。ワークルーム兼文庫もあり、施設を会場にした「オープンルーム」（体験型プログラム）を催している。2001年には市民参加のムササビソーラープロジェクトによって、屋根に太陽光発電設備が設置された。

事務所機能も持ち、フィールドソサイエティの活動の他、「遊びの寺子屋」、共催プログラムの運営を行っている。

7. フィールドソサイエティ

森のセンター創設を機に、フィールドソサイエティが設立された。

会は、会則に基づき組織化され、世話人会を意思決定機関とした非営利な団体として、森のセンターの運営と、そこを拠点とした環境学習活動を行っている。

活動は、300名余りの賛助会員に支えられている。独自企画や他団体との共催事業、学校等との連携事業など地域社会に開かれた活動を展開している。

常勤を含めた登録スタッフ10名ほどが有償ボランティアとして携わる。活動は会誌（年4回・現在98号）、ホームページなどで公開されている。

8. 未来へのメッセージとしての森づくり 2003年度には、法然院の境内林で市民による森づくり「善気山で観察の森づくり」を開始した。

森の多様性をまもり、観察フィールドとして創造することと身近な森を活性化させるために、専門のNPOや大学の協力で管理区分を設け、それに応じて森の手入れや観察路の整備、植樹などを行っている。獣害対策や間伐材の有効利用などの課題にも取り組んでいる。行政機関とも連携し、地域づくりを踏まえた森林学習活動を実践している。それらを通して、循環型のライフスタイルを考える機会にしていきたい。

9. これからの課題 団体の運営を安定させ、活動を充実させること。後継者の育成と会員の拡大、そのための広報の強化などがあげられる。

それと並行して、森のセンターの活用を図りたい。学校など地域との連携を強め、森のセンターを活かし、自然学習活動にとどまらず、先人の知恵に学び、持続可能な暮らし方を提案できる「学びの場」・現代版寺子屋を創っていきたい。

また、そのためにも里山の再生と森林資源の利用を、地域一体となった活動として充実させていきたい。

以上

「お寺の森での環境学習活動 30 年・事例報告」

フィールドソサイエティ事務局長 久山慶子

1. 法然院森の教室

テーマの事例

専門家と市民をつなぐ機会として

2. 自然観察会

お寺の森での自然観察の事例

自然観察体験の意義について

3. 森の子クラブ

例会の様子

合宿活動の様子

毎月の振り返り「もりのこつうしん」

4. オープンルーム

森のセンターを活用する機会

テーマの事例

5. 森づくり

目的にかかげたこと

森の区分分け

間伐、観察路づくり、植樹

6. 森のセンターギャラリー展示

実物展示

その他の展示

7. 発行物

会誌「MURYOJU」

その他、教材、報告書

以上

FIELD SOCIETY

共生き堂・法然院森のセンター



HONENIN NATURE STUDY PROJECT

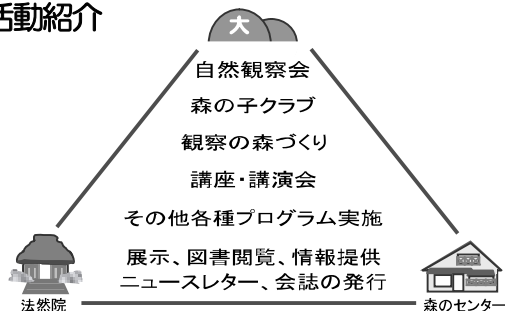
法然上人の草庵に源を発する法然院。1680年に現在の本堂が建立されて以来、地域に開かれたお寺の機能を培ってきました。本来的な宗教活動の一つとして、地域コミュニティの要として、境内をフィールドに、環境学習の活動が展開されています。

森のセンターのテーマ：森はともだち

- ◇ギャラリー展示
- ◇ワークルーム
- ◇里山文庫
- ◇ショップ
- ◇事務所



活動紹介



活動内容

オープンルーム

幼児から大人まで参加できる自然体験プログラムです
クラフト体験も行います

シリーズ自然観察会

季節毎のテーマで自然観察を行います

法然院森の教室

足元の自然から地球環境まで、幅広いテーマの講演会です

森づくり

お寺の森・善気山で「観察の森づくり」を行っています

エコ・ツアー

多様な自然や、暮らしと文化に触れる機会です

森の子クラブ (会員制)

環境学習の実践として、身の周りの環境を子どもたち自身が考えることを目的に、毎月の例会と合宿活動を行っています

会誌の発行

季刊「MURYOJU」などを発行しています



活動の歩み

- 1985年 お寺と市民の二人三脚で「法然院森の教室」開始
- 1989年 「森の子クラブ」開始
- 1991年 『フィールドガイド大文字山』出版
- 1993年 「法然院森のセンター」開館
環境学習市民グループ・フィールドソサイエティ発足
- 1994年 『森はともだち』発行
- 1995年 『ネイチャートレイル哲学の道』発行
- 1995年 『森の教室』出版
- 1998年 『てくてくたんけんマップ』発行
- 1999年 『森の子クラブ10周年記念誌』発行
- 2000年 紙芝居絵本「自然のひみつシリーズ」作成
- 2001年 むささびソーラープロジェクト「おひさま発電所」設置
- 2003年 「法然院森のセンター」10周年『大文字山を歩こう』出版
- 2004年 『観察の森づくり報告書』発行
- 2006年 『観察の森づくり報告書 Vol.2』発行
- 2008年 『観察の森づくり 手引き (報告書 Vol.3)』発行
- 2009年 「森の子クラブ」20周年記念事業
- 2010年 『観察の森づくり 手引き 改訂版』発行
- 2011年 『歩いて見よう！森の木々』発行
- 2013年 「お寺の森の整備事業」展開

賛助会員について

フィールドソサイエティの活動は、賛助会員の制度に支えられています。活動の継続のため、ぜひ、ご協力をお願い申し上げます。常時、受けつけております。
会誌「MURYOJU」などをお送りいたします。

賛助会費 (何口でも可)

個人	1口	年額	2,000円
法人・団体	1口	年額	10,000円

賛助会費のお振込みは

郵便振替/口座番号 01030-2-31955

口座名 フィールドソサイエティ



※森のセンターは法然院北坂(裏坂)の西正面

- 開館時間 午前10時～午後5時(入館無料)
- 休館日 毎週火曜日、第一・第三月曜日
年末年始(12/28～1/5)
その他活動のため臨時に休館することがあります
- 主な交通
JR京都駅・京阪三条駅より 市バス5系統、
京阪出町柳駅・阪急河原町駅より 市バス17、203系統、
浄土寺下車 徒歩10分
阪急河原町駅より 市バス32系統、南田町下車 徒歩5分



フィールドソサイエティ

〒606-8421

京都市左京区鹿ヶ谷法然院町72-2
法然院森のセンター

Tel, 075-752-4582 Fax, 075-752-4583

http://www.jttk.zaq.ne.jp/baais400/

E-mail: moricent@deluxe.ocn.ne.jp